

第2章 頻出表現編

第1章に引き続いて、第2章でも基本を取り上げることにする。

この章では文法よりも、いわば「～してから χ 年」「 χ 年ぶり」といった公式化されている定型表現を学習する。これらの事項もふつうに和文英訳の学習をしている限りでは必ず見かける表現であり、そういう意味では、やはり京大でも基礎力を大切に考えていることがうかがえる。京大の英作文文という、さぞかし難しいものだと想像される方がいるが、このように一つ一つ見ていくと、確かに一見日本語も長くて困難に見えるものもあるが、いざ取り組んでみれば、基本文の組み合わせで書けてしまうものも結構多い。

ということは、今後の取り組みも基本的な表現を確実にものにすることが第一の課題となる。そういう意味では、この章で取り上げた表現はいうまでもなく必修であるが、こうした問題の類題や、まだ京大では出題されていない定型表現や“ちょっとした言い回し”を暗記しておく必要がある。拙書『例解 和文英訳演習 公式運用編』（プレイス刊）では、そうした基本的な問題を数多く掲載しているので、そちらに取り組んでもらえれば普通の練習にはよいと思う。

まず、本編に取り組む前に次の日本語に相当する英語の定型表現が頭に浮かぶかチェックしてほしい。

【チェックリスト】

- 1. 「普及する」⇔ spread だと思っていないだろうか？ ⇒ §25
- 2. 「自然」⇔ nature だと思っていないだろうか？ ⇒ §26
- 3. 「捨てる」⇔ throw/~/away だと思っていないだろうか？ ⇒ §27
- 4. 「 χ 年ぶり」を英語でどう表現するか？ ⇒ §29
- 5. 「～は人によって様々だ」を英語でどう表現するか？ ⇒ §30
- 6. 「趣味」⇔ hobby だと思っていないだろうか？ ⇒ §28
- 7. 「～に夢中だ」⇔ be absorbed in ～だと思っていないだろうか？ ⇒ §32
- 8. 「料理」⇔ dish だと思っていないだろうか？ ⇒ §34